

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

海士町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

島根県隠岐郡海士町

3 地域再生計画の区域

島根県隠岐郡海士町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、1950年の6,986人をピークに減少しており、住民基本台帳によると2024年には2,231人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、2050年には総人口が1,605人となる見込みである。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は1980年の657人から減少し、2023年には250人となる一方、老年人口（65歳以上）は1980年の738人から2023年には894人と増加の一途をたどっており、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も1980年の2,143人から減少傾向にあり、2023年には1,093人となっている。

自然動態をみると、出生数は1994年の20人から減少し、2022年には12人となっている。その一方で、死亡数は2022年には31人と増加の一途をたどっており、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲19人（自然減）となっている。

社会動態をみると、転入数、転出数いずれも毎年100～140人程度で推移しており、転入数が多かった2013年を除き、均衡を保っている状況であり、2022年には転入者195人、転出者164人で社会増減は31（社会増）となっている。

今後、若者のさらなる人口増を実現していくためには、産業、教育、福祉、集落活動等、あらゆる分野において横断的に取り組む必要があり、また都市部からのIターンはもちろん、出郷者をターゲットとしたUターンへのアプローチや関

係づくりも必要となってくる。また、これまで伝統文化や商工業、一次産業を守ってきた65歳以上の年代については、医療福祉の充実や、若者への事業の継業や文化の継承、生涯現役のための一次産業の基盤づくり等、島外への流出を抑えつつ、役割を持って元気に活躍してもらう体制づくりが必要である。

また、今後、出生数が死亡数を上回ることは考えにくく、自然増が見込めない中で、人口減少に歯止めをかけるためには、社会増を実現していくことが重要であり、転入数に対して転出数を抑えていく必要がある。

こうした課題に対応するため、新規事業及び既存事業の拡大による雇用の創出、島内での事業継承等による若者の確保を行っていく一方で、そうした若者の所得向上や処遇改善、コミュニティ支援も含め島での暮らしの価値を高めていく取り組みを行う等、官民が一体となって地域を守り、活性化するまちづくり等を通じて、社会減に歯止めをかける。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- ・基本目標1 海士ならではの「住みよいまち」を整える
- ・基本目標2 海士ならではの「魅力あるひと」を育む
- ・基本目標3 海士ならではの「活力あるしごと」を生み出す

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	結婚した夫婦の数	8組	15組	基本目標1
ア	結婚した夫婦の平均年齢	33歳	28歳	基本目標1
ア	1年間に生まれる子どもの数	15人	20人	基本目標1
ア	海士町の子育てや教育環境に満足している割合	46.7%	50%以上	基本目標1
ア	福祉事業所の新たな雇用	2人	5人	基本目標1

	数（諏訪苑）			
ア	福祉事業所の新たな雇用数（新規ケアマネージャー）（海士町社会福祉協議会）	0人	3人	基本目標1
ア	福祉事業所の新たな雇用数（新規看護師）（福来の里）	0人	1人	基本目標1
ア	福祉事業所での相談員の数（新規相談員）（GHあまの里）	0人	2人	基本目標1
ア	福祉事務所での相談員の数（新規相談員）（さくらの家）	0人	2人	基本目標1
ア	福祉シェアハウス「チェダッテ」に住む福祉人材の数（年単位）	2人	3人	基本目標1
ア	海士診療所で働く職員の維持（医師）	2人	3人	基本目標1
ア	海士診療所で働く職員の維持（正規看護師）	6人	10人	基本目標1
ア	70歳未満の死亡数	2.0人	3.6人 (2020-2024 の5年平均)	基本目標1
ア	特定健診（40歳以上70歳未満）の受診率	51.8%	60%	基本目標1
ア	空き家活用物件数（累計）	35戸	38戸	基本目標1
ア	町営住宅等物件数（累計）	224戸	224戸	基本目標1
ア	清掃センターでのゴミの	1,002t	600t	基本目標1

	焼却量			
ア	清掃センターでの灯油使用量	3,985リットル	3,000リットル	基本目標1
ア	太陽光発電設備の設置数(累計)	28件	35件	基本目標1
ア	薪ストーブ、ボイラーの設置数(累計)	16件	25件	基本目標1
ア	身の回りの自然環境が豊かと感じる住民の割合	77%	77%以上を維持	基本目標1
ア	地域の一員であるという感覚をもつ住民の割合	36.7%	40%以上を維持	基本目標1
ア	海士町は安心してすみ続けられる町に向かっていると思う住民の割合	35.1%	50%以上を維持	基本目標1
イ	島育体験に参加した家族数	4家族	12家族	基本目標2
イ	アドベンチャーキャンプへの島外からの申込み数	— (中止)	15人	基本目標2
イ	ダッシュ村参加人数 大人	83人	83人	基本目標2
イ	ダッシュ村参加人数 子ども	19人	160人	基本目標2
イ	島内生の島前高校進学率	62%	70%以上	基本目標2
イ	島前高校推薦出願者数	47人	64人	基本目標2
イ	大人の島留学体験参加人数	90人	102人	基本目標2
イ	家督会(卒業生会)参加人数	50人	200人	基本目標2
イ	JICA、APICと連	17人	30人	基本目標2

	携した国際事業もしくは 研修で講師を務めた地域 住民の数			
イ	離島ワーホリ参加人数	8人	100人以上	基本目標2
イ	島食の寺子屋参加人数	5人	10人	基本目標2
イ	特定派遣組合員の数	1人	12人	基本目標2
イ	「ないものはない」特設ウ ェブサイトへの年間閲覧 数	0件	86,000件	基本目標2
イ	しゃばらん会補助金活用 団体数	12団体	12団体以上を 維持	基本目標2
イ	海士町版RE S A Sの活 用により生まれた官民連 携プロジェクトの数	0件	5件	基本目標2
イ	「ないものはない」生き方 に共感する住民の割合	59.7%	70%以上	基本目標2
イ	住民の意見が行政に反映 されていると思う住民の 割合	30.6%	50%	基本目標2
ウ	いわがき春香出荷個数	8万個	153万個	基本目標3
ウ	C A S商品売上	2.1億円	4億円	基本目標3
ウ	隠岐牛出荷頭数 子牛	229頭	300頭	基本目標3
ウ	隠岐牛出荷頭数 肥育牛	235頭	348頭	基本目標3
ウ	崎みかん生産量	9t	28t	基本目標3
ウ	本気米生産面積	2.15ha	5ha	基本目標3
ウ	本気米生産量	9t	20t	基本目標3
ウ	海士ぶどう収穫量（もし	700kg	4,000kg	基本目標3

	くは海士ワイン製造量)			
ウ	大敷定置水揚量	120t	160t	基本目標 3
ウ	マリンポートホテル海士での宿泊客数	2,403人	10,271人	基本目標 3
ウ	島宿での宿泊客数	967人	1,000人	基本目標 3
ウ	外国人宿泊客数	0人	1,000人	基本目標 3
ウ	リネンサプライ拠点での取扱宿泊施設数	6カ所	10カ所	基本目標 3
ウ	島会議、俳句ツアー参加人数	0人	250人	基本目標 3
ウ	派遣組合員の数	1人	12人	基本目標 3
ウ	しゃん山（農産物直売所）に新規登録した生産者の数（年間50万円未満の生産者）	5人	10人（累計）	基本目標 3
ウ	しゃん山（農産物直売所）に新規登録した生産者の数（年間50万円以上の生産者）	1人	6人（累計）	基本目標 3
ウ	ふるさと納税の金額	1.2億円	3億円	基本目標 3
ウ	ふるさと納税の人数	4,994人	10,000人	基本目標 3
ウ	島内事業所における起業や継業の数（起業）	2件	5件（累計）	基本目標 3
ウ	島内事業所における起業や継業の数（継業）	0件	3件（累計）	基本目標 3
ウ	建設事業発注額	18億円	単年20億円以上維持	基本目標 3
ウ	地方債残高	91億円	85億円以下	基本目標 3
ウ	実質公債比率	11.4%	8%以内の	基本目標 3

			持続	
ウ	地方交付税獲得指数	1位	1km ² 当たり 交付税県内1 位	基本目標3
ウ	半官半Xの働き方に挑戦 する町職員の数	5人	10名(累計)	基本目標3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例(内閣府)：【A2007】

① 事業の名称

海士町エンジン全開計画事業

ア 海士ならではの「住みよいまち」を整える事業

イ 海士ならではの「魅力あるひと」を育む事業

ウ 海士ならではの「活力あるしごと」を生み出す事業

② 事業の内容

ア 海士ならではの「住みよいまち」を整える事業

若者が安心して結婚し子育てができるよう、島ならではの結婚・子育て環境を整えながら、「海士まるごと安心家族」の実現を目指すとともに、年齢や障がい等でわけ隔てることなく、お互いに人格と個性を尊重し合いながら、共に生きる社会の実現を目指す。島内外との交流を続けながら、島の環境を活かした健康づくりと持続可能な医療体制を確立し、誰もが安心して暮らせるよう、時代にふさわしい住宅環境や生活基盤を整える。地域資源を活用した再生可能エネルギーの普及促進を図りながら環境負荷を下げ、時代にあった島の暮らしを実現し、島の自然環境や伝

統文化、営みを発展させながら、美しいまちを次世代に継承する。

【具体的な事業】

- ・海士町すこやか子育て支援事業（第5期海士町エンゼルプラン）
- ・福祉人材確保事業（LOVE AMAプロジェクト）
- ・医療人材確保プロジェクト（医師来島ツアー等の開催及びネットワークづくり）
- ・各種住宅整備、空き家バンク制度
- ・太陽光発電、薪ストーブ等の再生可能エネルギーの活用、普及促進
- ・里山再生資源化プロジェクト 等

イ 海士ならではの「魅力あるひと」を育む事業

島内外での交流を通じてふるさとの良さを掘り起こしながら、人間力溢れる「海士っ子」を育む環境を整えるとともに、地域や世界と繋がりながら、島内生にも島留学生にも魅力ある高校を実現し、意志ある未来の担い手を輩出する。島外からのU Iターンが島で挑戦しやすいよう環境を整え、島の担い手確保につなげ、「ないものはない」価値感を島内外に広げながら、関係人口や交流人口の構築や仲間づくりを行う。

【具体的な事業】

- ・島の子育て魅力化プロジェクト
- ・島前教育魅力化プロジェクト
- ・大人の島留学制度による滞在人口の推進・あまコミュニティチャンネルやICTの活用、「ないものはない」特設ウェブサイト等による戦略的な情報発信 等

ウ 海士ならではの「活力あるしごと」を生み出す事業

島にある地域資源を戦略産品として位置づけ、新技術の研究開発・導入により生産体制を整えながら、国内外に向けた販路拡大を支援する。島を守り、島を繁盛させる新たな観光の仕組みづくりを構築する。民間の新たな挑戦を支援し、地域資源と人材を活用した新たな仕事づくりと島内事業者の起業・継業を図りながら、島の持続可能な経済循環を実現する。

【具体的な事業】

- ・いわがき春香、C A S 商品、隠岐牛等の更なるブランド化推進と拡大支援
- ・ホテル魅力化プロジェクト、島宿によるブランディング事業
- ・AMAホールディングス、海士町複業協同組合 等

※1 なお、詳細は海士町エンジン全開計画《第二期海士町創生総合戦略・人口ビジョン》のとおり。

※2 ただし、地域再生計画「関係人口創出、拡大による島の担い手育成プロジェクト」及び「海士町ならではの「活力あるしごと」を生み出すプロジェクト」の5-2の⑥に掲げる事業実施期間中は、同②に記載された事業を除く。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

50,000 千円（2024 年度）

⑤ 事業の評価の方法（P D C Aサイクル）

毎年度3月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本町公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで